

偽・誤情報に関する啓発教育教材等の概要

(総務省「メディア情報リテラシー向上施策の現状と課題等に関する調査結果報告」抜粋)

2022年 6 月

[委託先] みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社
デジタルコンサルティング部

第5章 令和3年度事業で開発した偽・誤情報に関する啓発教育教材及びその学習計画・効果測定手法の概要

5.1 本調査において開発した啓発教育教材

- （内容の方向性）EUにおいて幅広い年齢層のメディアリテラシーの向上を図るプログラム「GET YOUR FACTS STRAIGHT!」と、同じくEUで短時間でフェイクニュースに関するリテラシー教育プログラムを想定している「Spot and Fight Disinformation」を参照した。また、わが国ならではの事情や事例がある。そのため、用いる事例は想定される国内受講生のなじみ深いものとし、これまでのフェイクニュースに関する各種国内調査、啓発コンテンツ、教材を適宜参考にしてオリジナルのものを作成した。内容は、有識者検討会での意見を効果的に反映した。
- （対象）若年層～成人世代まで幅広く対象とできる内容とする。具体的には、高校生以上を対象とした。
- （講座時間）長時間のプログラムは普及しにくいことや、海外でも脱落者が多く出ていることから、検証テストを除いた講座単体の時間を1時間以内に収まるように設計した。テストを含めても、大学の講義時間（90分）程度に収まるものを作成した。
- （学習目標）「GET YOUR FACTS STRAIGHT!」の10個の学習目標をアレンジした、「表 学習目標」の10個の目標を満たすような内容とした。

表 学習目標

学習目標	学習目標の内容
1	二セ・誤情報の特徴を理解する。
2	誤解を招くような情報の種類を理解する。
3	自分が騙されることもあることと、騙される理由を理解する。
4	自分を欺く目的で二セ情報が発信される理由（動機）を理解する。
5	誤った情報を信じたり共有したりすることが、社会や自分にとってどのような影響を及ぼすかを理解する。
6	アルゴリズムが、インターネット上で見るものにどのような影響を与えるか理解する。
7	信頼できる情報源にはどのようなものがあるか知る。
8	情報を確認する方法を知る。
9	情報との適切な接し方を知る。
10	事実と意見の区別の重要性和、世の中には多様な意見があることを理解する。

5. 1 本調査において開発した啓発教育教材

①啓発教育教材と教師向けマニュアルの内容

(1) 啓発教育教材と教師向けマニュアルの内容

- ❑ (デザイン) 今後教育機関や関係団体、事業者等が活用することを視野に入れ、分かりやすいデザインとした。
- ❑ (形式) 新型コロナウイルスの影響や実施のしやすさを鑑みてオンラインで実施可能な内容とした。
- ❑ (作成する教材の種類) 教育に用いるスライド資料と、教師向けのマニュアルの2種。スライド資料はどのレベルの受講者でもわかる表現とし、編集が容易なppt形式とした。教師向けマニュアルでは、各スライドで話す内容を詳細に記載し、読めば講座が実施できるようにした。



図 啓発教育教材*

* コンテンツ全体については別添資料参照

表 啓発教育教材の目次

章番号	目次
1	「二セ・誤情報」ってなに？
2	私たちはなぜ騙されるのか？
3	騙されたらどうなる？
4	騙されないためには？
5	最後に大切なことを

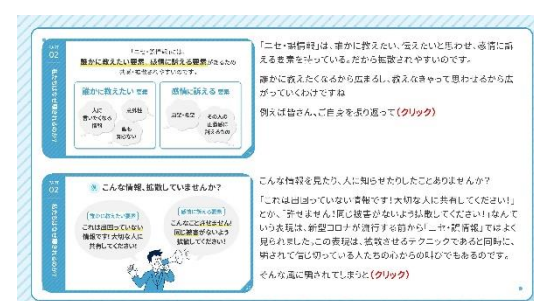


図 教師向けマニュアル*

* コンテンツ全体については別添資料参照

①効果検証手法の概要

(1) 効果検証テスト・意識調査・講座アンケートの概要

- (目的) 受講生が、偽・誤情報についてどれほど理解したかを測定することを目的とした。
- (検証方法の方向性①) 国内外の効果測定方法には様々存在するが、大きく、1) 事後に講座に対する所感を尋ねる、2) 事後に正誤問題を提示して解いてもらう(クイズ・テスト形式)、3) 事前事後に実際にファクトチェックをしてもらう、の3つに分類できる。1) は参加者の負担が少ないというメリットがあるが、定性的に感想をまとめるにとどまってしまう。3) はファクトチェック能力の向上を確認することが出来るが、参加者と出題者の負担が著しく大きく、本リテラシー教育を普及させるうえで足かせとなる。
- (検証方法の方向性②) 以上を踏まえ、2)をベースに、講座の効果が定量的に把握できるような、効果検証テストを作成した。具体的には、講座前と講座後に同じテストを受けてもらい、講座によって点数がどう変化したかを確認した。
- (検証方法の概要) 講座事前には10問の「効果検証テスト」を実施した。講座事後には、全く同じ「効果検証テスト」の他、5つの「意識調査」と、7つの「講座アンケート」も実施した。

効果検証テスト

1. 事前と事後に全く同じものを実施する。
2. 全10問で、10点満点。
3. 各設問が10個の学習目標に対応した内容となっている。

意識調査

1. 講座を受けて受講生の意識がどのようになったか、事後に調査を行う。
2. 全5項目の調査。

講座アンケート

1. 講座に対する評価を尋ね、今後の講座の改善に活かせる知見を得る。
2. 全7項目の調査。

②効果検証手法の詳細

(1) 効果検証テストの内容①（正解は赤字）

問い番号	対応する学習目標	問い
①	二セ・誤情報の特徴を理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 - 意図をもって作られたウソのみが、二セ・誤情報と呼ばれる 真実・事実より、二セ・誤情報の方が拡散しやすい - 面白くない情報、興味をひかない情報を二セ・誤情報と呼ぶ 善意から拡散される二セ・誤情報も存在する - この中に正しいものはない
②	誤解を招くような情報の種類を理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 - 一部でも事実を含んでいる情報なら、内容に誤りがあっても二セ・誤情報とは呼ばない - 企業が発信する情報は、信頼性が高いので信用できる - 誰が作ったグラフでも、同じデータであれば同じ印象のものとなる 根拠となるデータは正しいが、それを意図的に曲解して作られた二セ・誤情報が存在する - この中に正しいものはない
③	自分が騙されることもあることと、騙される理由を理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 望ましい・信じたいと思う情報には、より騙されやすい 冷静で注意深い人でも、二セ・誤情報に騙されることがある - 同じ事実を目撃した人たちは、みな同じ感想を述べる 二セ・誤情報には意外性の高いものや、その人の正義感に訴えるものが多く、拡散されやすい - この中に正しいものはない
④	自分を欺く目的で二セ情報が発信される理由（動機）を理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 個人や企業の利益のため、二セ・誤情報が流されることがある - 正しい情報なら、そこに悪意が込められていることはない - クチコミは個人による情報発信なので信頼できる 二セ・誤情報では、損をする人や得をする人がいる - この中に正しいものはない
⑤	誤った情報を信じたり共有したりすることが、社会や自分にとってどのような影響を及ぼすかを理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 二セ・誤情報によって、治安の悪化や暴動が引き起こされることがある 悪意がなくても、誤情報の拡散で訴えられることがある 人命にかかわる二セ・誤情報が存在する 二セ・誤情報が経済に影響を与えることがある - この中に正しいものはない

②効果検証手法の詳細

(2) 効果検証テストの内容②（正解は赤字）

問い番号	対応する学習目標	問い
⑥	アルゴリズムが、インターネット上で見るものにどのような影響を与えるか理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 • SNSへの投稿内容を見れば、世間の動きや意見を客観視できる • ネットのアルゴリズムは、ニセ・誤情報と関連している • ネットのニュースは、人によって異なる記事が表示される • 多くのSNSでは、自分好みの投稿が優先的に表示されるようになっている • この中に正しいものはない
⑦	信頼できる情報源にはどのようなものがあるか知る。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 • 拡散した情報は、多くの人に検証されているので安心できる • 感染症に関する厚生労働省のウェブ情報は、家族や友人からの情報より信頼性が高い • 「急いで知らせたい」と感じさせる情報には特に注意が必要だ • メッセージアプリで知人が「専門家から聞いた情報」として送信してきた情報は信頼性が高い • この中に正しいものはない
⑧	情報を確認する方法を知る。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 • 画像が添付されている情報は、より信頼性が高い • 情報を信用する前に、それを否定する他の情報がないか確認するべきだ • 人命にかかわる情報なら、速やかに拡散させるべきだ • 混乱を避けるため、情報源はなるべく1つに限定する • この中に正しいものはない
⑨	情報との適切な接し方を知る。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 • 不確かな情報は、世間に拡散させて追加情報を募ると効率的だ • 情報は鵜呑みにせず、「間違いかも」と考えることが重要だ • 単なる拡散・リツイートにも、情報発信の責任が伴う • 専門家であっても、過去の発言に問題がなかったか確認すべきだ • この中に正しいものはない
⑩	事実と意見の区別の重要性和、世の中には多様な意見があることを理解する。	次のうち、正しいものを全てお選びください。 • 互いの意見が異なる場合は、どちらかの意見が誤っている • 異なる意見はできるだけ一本化して、社会を効率化するべきだ • どのような情報・ニュースでも、意見と事実は分けて考えるべきだ • 間違いだと思う意見に対しては、強く批判して取り消させるべきだ • この中に正しいものはない

②効果検証手法の詳細

(3) 意識調査・講座アンケートの内容

表 意識調査

番号	内容
①	過去に自分が誤った情報を信じていたかもしれないと感じた ・ 当てはまる ・ やや当てはまる ・ あまり当てはまらない ・ 当てはまらない
②	過去に自分が誤った情報を発信していたかもしれないと感じた ・ 当てはまる ・ やや当てはまる ・ あまり当てはまらない ・ 当てはまらない
③	今後は情報に対して「これはニセ・誤情報なのでは」と注意できそうだと感じた ・ 当てはまる ・ やや当てはまる ・ あまり当てはまらない ・ 当てはまらない
④	ニセ・誤情報を判別する能力を伸ばしたいと感じた ・ 当てはまる ・ やや当てはまる ・ あまり当てはまらない ・ 当てはまらない
⑤	本日の講習で得た知識を、誰かに伝えたいと感じた ・ 当てはまる ・ やや当てはまる ・ あまり当てはまらない ・ 当てはまらない

表 講座アンケート

番号	内容
①	講習全体に参加していかがでしたか？ ・ 良かった ・ やや良かった ・ あまり良くなかった ・ 良くなかった
②	講習時間はどう感じましたか？ ・ 長い ・ ちょうどよい ・ 短い
③	講習の資料についてどう感じましたか？ ・ 良かった ・ やや良かった ・ あまり良くなかった ・ 良くなかった
④	今回のような講習は、どの時間帯だと最も受けやすいですか ・ 平日日中 ・ 平日夜 ・ 休日日中 ・ 休日夜
⑤	今回のような講習がほかにもあるとしたら、どのような形態だと最も受けやすいですか ・ 現地（オフライン）での講習 ・ オンラインでの講習 ・ 録画された動画での講習（YouTubeなど） ・ 資料のみで良い
⑥	講習の資料について意見・感想・要望を自由にお書きください。特になければ「特になければ」とお書きください。
⑦	講師について意見・感想・要望を自由にお書きください。特になければ「特になければ」とお書きください。